

札幌彫刻美術館友の会会報

い・ず・み

題字 国松明日香氏

創刊号 平成14年9月1日

友の会の誕生と歩み

札幌彫刻美術館友の会
会長 橋本信夫



財団法人札幌彫刻美術館は本郷 新氏を記念して1981年に創立されました。友の会も同年、初代館長原子 修氏の指導のもとに、「彫刻美術館の事業活動の進展に寄与するとともに、彫刻美術の鑑賞・研究を通じて会員の教養を高め、もって彫刻文化の向上に資する」ことを目的に設立され、現在に至っております。

初代会長には国松 登氏が就任し、1989年から浦口鉄男氏、そして1997年から橋本信夫へと引き継がれています。会員数は設立時が120名、1990年には70名となり、現在は約100名です。

当然のことながら友の会の事業は美術館と表裏一体であったため、会の運営も長く美術館主導で行われておりました。しかし過去20年間の美術館事業の推移とこれを取り巻く社会環境の急激な変化に対応するには、友の会自身の変革が不可避と判断され、今年5月の総会において本会を自主運営組織に切り替えるよう改められました。



本郷 新「泉の像」
(札幌大通公園)

そこで友の会は当面、従来どおり館の諸事業にボランティア的協力をを行うものの、基本的には大勢の会員による草の根的な宣伝活動に重点を置き、地域密着型の支援を通して会員の親睦と彫刻美術文化の向上を図ります。

このために今年度から友の会に会報編集委員会を設け、また会報名を札幌市の大通公園に設置されている本郷 新の傑作「泉の像」に因んで「い・ず・み」と定め、年4回刊行することに致しました。さらに友の会ホームページも新設し、一般市民に向けたより効果的な広報活動を展開すべく準備致しております。

新生友の会の発足に際し、「い・ず・み」の発行、更には入館者と会員の倍増を初年度の重点目標にしております。会員の皆様には、当館と友の会の諸行事への積極的な参加を心からお願い申し上げる次第です。

創刊に当たって

(財) 札幌彫刻美術館
理事長 藤島 積



このたび図らずも(財)札幌彫刻美術館の理事長をお引受けすることになりました。

とは申せ、ことの重大さに痛く逡巡しているのも正直な心境であります。

今、全国の美術館は実に厳しい環境下に置かれています。公設の主要美術館である「東京都現代美術館」や「愛知県立美術館」が、運営費を大幅に削減される一方、総合美術館の使命である作品の購入費も凍結されるという報道が流れたのは、つい先頃のことです(2000年6月、朝日)。また周知のとおり企業リストラのあおりで、民間の「セゾン美術館」や「東武美術館」が相次いで閉館の憂き目に会いました。

美術館の入館者数も全国主要館800館の平均で、1990年ピーク時の11万人が、現在5万人にまで落ち込んでいる有様です。

このような状況下で、特定芸術家の業績を顕彰する記念美術館やジャンル毎の専門美術館が一層の苦戦を強いられているのは、無理からぬことです。

ここで原点に戻りましょう。

言うまでもなく優れた芸術家の残した作品は、その所有者が誰であれ、市民が共有する貴重な財産であります。本郷 新という郷土が生んだ偉大な彫刻家の作品群は市民一人一人がこれを共有し、守り、そして後生に引き継いでいかなければなりません。

こうした市民層の意識の昂りこそ、札幌彫刻美術館が生き残るための原動力になるものと思います。そのために美術館を取り巻く二重、三重のボランタリーな、強固な支援の輪を構築する必要があり、この場合 美術館と市民層の接点に立つ「友の会」の皆様のお力を是非お借りしたいと思います。また館周辺の地域住民の参加も強く望まれます。

そして支援の輪がもたらすサービスや情報が、一般市民に広く浸透して行くものと確信いたします。地道で息の長い取り組みですが、館としても皆様のご協力のもと、なお一層の努力を傾注して参る所存であります。

悠久の風の中で希望(HOPE)を

(財) 札幌彫刻美術館
館長 三輪 望



廣井 弘前館長の後任として4月から勤務しています。日々流れる美術館の諸行事を職員と協力しながら悠久の日を過ごしています。

札幌彫刻美術館の貴重な存在を膚で感じながら、多くの人々に支えられている館の姿を新たに認識しています。

今から11年前、中学校の授業のために訪れた時、一人一人の生徒の感激ぶりが昨日のことの

ように思われてなりません。若い時代の多くの体験・経験が、後々の世界(人生)に大きく左右することは自明の理です。

あのときの中学生の感動、そして授業での多くの質問事項に若い感受性を大切にしなければと強く思ったことが印象深く残っています。

札幌の住宅地宮の森の地にある札幌彫刻美術館が、特に札幌の多くの小・中学生の心にふれ、

札幌出身の不世出の彫刻家本郷新氏の「思い」がひろく伝わり、人々に親しまれる美術館の役割が大切であると思います。そのために知恵を出し、職員とともに努力していこうと決意しています。

特に最近強く思うことに、本郷新氏の彫刻十戒の二つに気持ちが寄せられます。

「形はどこで生まれ、どうして成長し、どこにどう収まるのかを知ることは難儀である。これほど単純でまた複雑な問題はない。これを知ろうとすることは彫刻する行為以外には求められ

ない。」「形なきものに形を与えるには精神の緊張が必要である。しかもこれには終わりというものがない。」空間芸術としての彫刻を現実的に公共性を意識して制作してきた本郷新氏の伝えたい思いを知ることができます。

人は希望で生きる動物であると言われます。私は向上しようとの思いから四文字の希望を大切にしています。Harmony（調和）、Operation（働き）、Plan（構想）そしてEndurance（忍耐）のHOPEです。

よろしくおねがいいたします。

札幌彫刻美術館行事カレンダー

A 行事

平成14年9月～平成15年3月

本館	記念館
8月30日（金）～10月14日（月） 北の彫刻展2002 北海道で活躍する8人の彫刻家による展覧会	3月30日（土）～10月14日（月） 平成14年度前期 本郷 新 収蔵品展 家族の肖像 本郷の家族をテーマにした彫刻や絵画を紹介 馬の造形 （同時開催） 今年の干支に因んで本郷の馬の彫刻、レリーフ、絵画を展示
臨時休館 10月15日～18日	10月19日（土）～3月23日（日） 平成14年度後期 本郷 新 収蔵品展 素描展 （本館と同時開催） 本郷の未公開のスケッチブックから1966～1974年の旅先の風景や友人を描いた作品を展示 早いタッチで線描し、彩色した作品が魅力！
素材と表現展 素材の持ち味を生かしながら制作した本郷作品の数々を紹介	

B 宮の森散策と美術館鑑賞の会

* (申し込み：札幌市広報9・10月号参照のこと)

「さすがに広い石狩の平野も、札幌市外の南西に連なる大小の山々に行く手をはばまれる。藻岩山、円山、双子山、荒井山、大倉山、それに前後して三角山、手稲山と続く山々。札幌で春がきたといい、雪がきたというとき、いつもこれらの山々のたたずまいが鏡になる。・・・」

本郷 新 隨想「山麓から」より

* 平成11年度より年6回、彫刻美術館周辺の山々の登山と彫刻鑑賞の会を実施しています。本年は夏までに3回のステージを終え、秋の散策の季節を迎えました。

ステージIV

9月28日（土）

秋の三角山
北の彫刻展2002

ステージV

10月26日（土）

三角山と大倉山の縦走
本郷 新収蔵品展

C 教育普及事業

- 1 道内めぐり：「道南方面の野外彫刻鑑賞の旅」 (札幌彫刻美術館主催)
期日：9月18日（水）札幌市内8:00出発 長万部～八雲～函館（泊）
19日（木）函館市内観光と美術館訪問など、札幌17:00時帰着予定
費用：2万2千円 定員：40名（先着順）
申込：8月13日（火）から電話で
- 2 宮の森 Thanks Day (宮の森 明和町内会 無料開放)
日ごろ街路の清掃活動、お花の供与、緑地の手入れ、道案内、野外彫刻の清掃と管理など、様々なご協力を頂いている明和会の方々へ感謝の意を込めて、当館を無料で開放し、自由に作品を鑑賞して頂きます。
- 当日の展覧会
- 期日：9月23日（月・祭日） 北の彫刻展2002
11月3日（日・祭日） 本郷 新収蔵品展
- 3 第3回造形教室（テラコッタ）
講師：小野寺紀子氏（彫刻家） 全道展会員 北海道デジタル専門学校講師
道新・NHK文化センター講師
期日：10月5日（土）・10月6日（日）2日間連続
*（第4回造形教室（テラコッタ）は平成15年2月に予定）

本郷 新の魅力を再発掘

仲野三郎 会員



私たちの敬愛する本郷 新先生は1905(明治38)年12月9日、札幌市中央区北3条西2丁目で誕生しました。当時の札幌市の人口が約6万人と言えば嘘のようですね。札幌2中(現西高)に進み、1924年には丸井さんで親しまれた丸井今井百貨店で友人と2人展を開くなっています。

この愛する郷里に寄贈した作品とアトリエを生かし、1981(昭和56)年6月29日に開館したのが札幌彫刻美術館です。企画展など各種展覧会の行なわれる本館と、石膏原型を中心に本郷 新の活躍を偲ばせる作品が展示された記念館から成っています。

本郷 新の魅力!

それは何といっても素晴らしい発想と力強い造形にあ

ります。しかし入館者は当初の2万人が時の経過とともに減少し、今や年間5000人を確保するのもやっとです。

本郷新の作品の魅力が時代とともに色あせたのでしょうか。いや私はそうとは思いません。

「わだつみ像」の持つ強さ! 「泉の像」の持つ香り高き乙女の姿! それは今も見る人の心を捉えます。

新生友の会の役割、それはこの本郷 新の魅力を改めて皆さんに伝え、共に彫刻の美を楽しむ機会を持つことだと思います。友の会の会則には「彫刻美術の鑑賞・研究を通じて会員の教養を高め、もって彫刻文化の向上に資する」...と謳っています。今まで知られていない本郷 新の魅力も再発掘して皆さんとともに楽しんで行ければいいなと思っています。

北の彫刻展2002

北海道で活躍する8人の彫刻家による展覧会

開催期間

8月30日(金)～10月14日(月)

「北の彫刻展」は1982年を第1回展として開催し、以来隔年で実施して一昨年の2000年には第10回記念展を開催しました。「北の彫刻展2002」は、この流れを受け継ぎながら作家数を半分に減らし、新メンバーに入れ替えました。ご来館をお待ちしています。

作家 略歴

伊藤 隆弘	全道展会友 石川県美術協会会員 石の彫刻・抽象 長沼町在住 1961生
岡沼淳一	全道展会員 自由美術協会会員 木の彫刻・抽象 音更町在住 1944生
小川 誠	全道展会友 新制作に出品 具象 函館市在住 1961生
小野寺紀子	全道展会員 具象 札幌市在住 1948生
川上りえ	道展会員 北海道デザイン協議会会員 金属(鉄) 具象・抽象 石狩市在住 1961生
菅原尚俊	道展会員 石の彫刻・抽象 江別市在住 1964生
寺田 栄	無所属 第1回本郷新賞受賞(共同制作) 石の彫刻・抽象 旭川市在住 1949生
藤井忠行	無所属 木・石・金属を使った彫刻・抽象(今回は木の作品) 旭川市在住 1943生

彫刻美術館 NOW

* 8月30日(金)から始まる

北の彫刻展2002について

井上みどり 学芸員に伺いました。

Q(編集部)：「北の彫刻展」も今回で11回目を迎えるますが……

A(井上学芸員)：はい、1982年から隔年で10回開催してきた今までの展覧会に一区切り付けて、その精神を生かしながら新しい試みをしたいと思っています。

Q：具体的には？

A：作家を8人に絞り、展示スペースに余裕を持たせ、それぞれの作家にあらかじめ展示空間を用意して、出品作品がどのように展示されるかわかるようにしました。このように、作品は展示空間を想定して制作されましたので、それぞれの個性を生か

せます。素材も木・金属・石とバラエティに富んでいますし、具象・抽象どちらの作品も展示します。

Q：8人の作家の方たちは？

A：必ずしも北海道出身の作家というわけではありませんが、現在北海道にアトリエを構えて活躍中の方で、年齢も30代から60歳近くまで幅広く選びました。

Q：展覧会の見方は？

A：難しく考えることはありませんが、彫刻作品を知る良い機会なので、素材や主題を確かめ、自分自身のお気に入りの作品を見つけてくださいれば良いでしょう。8人の作家の作品は今回の展示作品だけでなく、道内のいろいろな美術館はもちろん、小学校の庭や公園・区役所などのモニュメントとして置かれていますので、今回の展覧会を契機に街の中の彫刻探検にでかけるという楽しみもあります。

* 鑑賞初心者にも楽しめそうな北の彫刻展2002は
10月14日(月)までです。

友の会だより

役員の役割・分担

5月18日の総会で今年度の友の会の役員が決まりました。各役員の主な役割・分担は以下の通りです。

友の会の役員 (平成14年度)

氏名	更新	役割	分担
藤島 積	新任	顧問	彫刻美術館理事長
寺山敏保	再任	顧問	彫刻美術館副理事長
前川一彦	再任	顧問	彫刻1美術館副理事長
三輪 望	新任	顧問	彫刻美術館館長
浦口鉄男	再任	顧問	前会長
橋本信夫	再任	会長	会務の総括
田山登代美	再任	副会長	事務局・会報・HP
仲野三郎	再任	幹事	事業計画・経理・会報
斎藤美年子	再任	幹事	経理・旅行企画
野崎泰男	再任	幹事	庶務・会報
三上正一	再任	幹事	記録・旅行企画
木下啓二	再任	幹事	会報
田中扶美子	再任	幹事	庶務
清水梅雄	新任	幹事	会報編集
鈴木敏明	新任	幹事	HP開設・旅行企画
吉田修子	新任	幹事	庶務・記録・会報
高津多香子	新任	幹事	経理・庶務
高橋淑子	新任	幹事	経理・会報
今泉省吾	再任	監事	監査・会報
濱 久子	再任	監事	監査・会報・HP

友の会会員のお誘い

平成14年度の会員を募集しています。

- * 本会は彫刻美術館を支援しながら彫刻を楽しみ、会員相互の親睦を深めるための集まりです。
- * どなたでも気軽にれます。
- * 入会すると次の特典があります。
 - a 年間、同伴者1名を含め、常設展と特別展を無料で鑑賞できます。
 - b 当館発行の諸資料を配布します。
 - c 当館主催の講演会、講座、旅行会などの案内状を送ります。
- * 年会費

a 正会員	2千円
b 賛助会員	5千円
c 団体会員	1万円
d 終身会員	2万円
- * 詳しくは友の会事務局にお問合せ下さい。
入会申し込み用紙をお送りいたします。

イベント ニュース

会員の皆様にはすでにお知らせしましたが、来る9月16日(月・振替休日)に日帰りで研修バスツアーを予定しています。

4月の総会でも講演してくださった米坂ヒデノリ先生のアトリエ・忘筌庵を訪ね、作品鑑賞とともに制作時のエピソードを伺うなど、研修ツアーならではの成果が期待できます。

また、おまけとして、北の錦記念館で清酒の試飲をした後、親睦も兼ねて北村温泉ホテルにて幕の内弁当とのんびり温泉に浸って頂くという特別企画です。

当日の模様は次号でご報告できると思いますので、残念ながら今回は参加できないという方もお楽しみを！

札幌彫刻美術館友の会のホーム・ページ開設

会報「いずみ」と併行して彫刻ファンを対象に友の会のホーム・ページを立ち上げました。

ホーム・ページ アドレス

<http://sapporo-chokoku.jp>

彫刻美術館と友の会の行事やコレクションの紹介にとどまらず、彫刻鑑賞の情報源として広く世界に発信できればと願っています。

只今 工事中！！！ 10月に発信予定

編集後記

新生友の会「いずみ」第1号です。混沌に目鼻を付ける楽しさを編集委員一同堪能しました。生かすも殺すもこれからです。こうして形にできたのもご寄稿頂いた方々のお陰です。有難うございました。（仲野）

札幌彫刻美術館友の会 会報「いずみ」No.1

財団法人札幌彫刻美術館内 編集責任者 濱 久子

〒064-0954 札幌市中央区宮の森3条12丁目

電話・ファックス：011-(642)-5709

平成14年9月1日発行